

## 大学生の学園生活満足の実分析

和田 孝彦 田崎醇之助

### 目 的

最近、我国においてスクール・モラルについての幾つかの研究が報告されている（井上，1977；西山・倉智・松山・中津，1977）。それらの研究は，“学校への関心”“級友との関係”“学習への意欲”“教師への態度”“テストへの適応”といった下次元からなるスクール・モラル・テストを作成・使用して，性格特性，学業成績，自己概念などとの関係を検討している。

ところでモラルなる概念は，アメリカを中心に我国でも産業界で比較的古くから必要とされており，その概念規定をめぐる盛んな議論がおこなわれてきた。例えば，鈴木(1971)によると，それが単一概念であるのか，複合概念であるのか。集団概念であるのか，個人概念であるのか。完結概念であるのか，ポテンシャル概念であるのか。経営概念であるのか，職場概念であるのか，といったところが主たる論争点である。

しかし，それも最近では若干様相を異にし始めている。本明(1967)，田崎(1970)らの指摘のとおり，産業心理学領域では，モラル概念よりむしろ職務満足(job satisfaction)という概念のほうが多くなりつつある。その背景として，モラルといっても，測定の方法からすれば，職務遂行者をとりまく種々の条件に対する満足度を質問していることが多いこと，そして志気，又は士気(morale)というよりも，個人の職場適応のレベルを測定していると考えたほうが適切であること，などの議論やデータが多くなってきたからである。

筆者らの研究動機も，基本的には学生の適応レベルをみるとするスクール・モラル研究と同じである。ただ概念の変遷過程をふまえて，大学生の学園生活の満足の構造を明らかにしようと計画した。すなわち学園での生活上の満足感・不満感はどんな要因によって規定されているか，を全体的に把握することを目的とした。さらに可能であれば，そこから学園生活満足調査の試案を提出し，妥当性についても検討を加えたい。

## 方 法

## 調査票の作成手続

1) 本調査に先立ち、1976年5月にA短大の2年生35名を対象に予備調査を実施した。無記名、自由記述の方法で、学園生活での正方向（喜びや満足）と負方向（イライラや不満）の感情体験とその内容について資料を集めた。

回収した意見総数は、正方向のもの65個、負方向のもの189個であった。これらを整理、分類して、調査票作成の基礎とした。

2) 同時に関連図書、文献を走査し意見項目の収集をおこなった。参照した主なものは、モラル又は職務満足調査関係（日本労務研究会、1955；総理府人事局、1970）大学生意識調査関係（立教大学生相談部・学生部、1973、1975）及びその他の意識調査関係（中村、1974）などである。

3) こうして枚挙した意見項目を3名の共同研究者間で討議しながら調査意見項目として精練していった。98箇の意見項目が残ったが、それを現職心理学教員4名、教育学、生物学の各一名の教員に提示し、意見を求めた。調査意見項目としての妥当性、内容の一義性、表現の適切性などについて専門的な、又は naive な判断情報を得るためである。

4) 最終的に調査票を構成したのは91意見項目であり、概念上分類、整理すると次の8領域となった。(i)授業、講義関係領域 (ii)教員関係領域 (iii)交遊関係領域 (iv)事務サービス関係領域 (v)クラブ、自治活動関係領域 (vi)学園施設関係領域 (vii)帰属意識領域 (viii)コミュニケーション領域 (ix)大学管理、運営関係領域

## 調査対象と回答方法

調査対象、その属性、調査期日は Table 1 のとおりである。本来ならば調査対象学園についての物理環境的属性、教育、学生管理システム特性なども記載する必要があるが、調査依頼時の守秘条件のため割愛した。

調査は無記名、5段階評定。調査票の左側に配列した意見項目に対して、一致する（又は

Table 1 調査対象

	対象数	性別	学 年	調 査 日
A 短大	85	♀	1, 2	1976. 12. 14
B 短大	133	♀	1, 2	12. 8
C 大学	60	♂	1, 2	12. 12
計	278			

あてはまる)～一致しない(あてはまらない)のカテゴリーで評定してもらった。得点は原則として「一致する」の側から1～5点を与えたが、解釈する時の読み易さから、モラール・サーベイにならって、方向を逆転した項目もある。

## 結果と考察

### 1 学園生活満足の構造

学園生活の満足感はどのような構造になっているのだろうか。この問いに対する心理学的解の一つは因子分析による共通特性の抽出である。

本調査資料にも主因子解法を摘要し、Varimax法による直交回転をおこなった。調査対象の大学別とそれらをこみにした全体にこの処理を実施したが、本報告では紙数の関係で全体結果のみをTable 2に表示した。Table 2の表頭には因子と、表側には変数を配したが、表側の変数番号はTable 3のNoと対応している。なお、コミュニティには1を使用した。

Table 2の因子分析結果をみると、固有値1以上の独立因子が27個も抽出されたことになる。説明力は62%であるが、このままでは研究目的からして因子数が多すぎるきらいがある。

さらに細く、因子と変数をみていくと、同一変数が複数の因子で高い負荷量をもっていたり、独立とみなされる因子でも、高い負荷量を持つ変数が実際には無かったり、1個であったりする。又、常識的に考えて、全く異質と思えるような変数が、組をなす変数の中に出現したりしている。

そこで、Table 2に依拠しながら、次の手順で因子と変数の決定をおこなった。まず、変数ごとに、負荷量の高い因子(暫定的に $\pm 0.3$ 以上とした)を列挙して、同一変数が複数の因子にまたがっているかどうかをチェックした。複数の因子にまたがっている場合でも、因子負荷量に大差があると、大きい負荷量の因子と対応させ、差がないときには、変数そのものを削除した。

次いで因子ごとに、先の負荷量と同じ基準で変数を列挙した。因子数を少なくして、大きく変数を仕分けるために、1変数しか含まない因子、2～3変数でも、変数間に矛盾のある因子は削除した。

Table 3は、Table 2から以上の手順をへて作成したものである。Table 3にもとづいて因子の解釈をおこなった。

I 因子：大学を構成する要素は、人的には学生、教員、職員である。特に教員との関係は大きな比重を占めているだろう。教員との関係でも、ここで問題になっているのは対面関係である。教員の姿勢に、学生は敏感であり、教員の態度が開かれたものであるのか、閉じて

(1) Table 2 Varimax 法による直交回転後の因子負荷行列

	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X
1	080	-448	060	060	-181	-056	-210	054	-064	075
2	060	065	099	124	-004	055	035	-100	070	-002
3	024	163	112	021	-213	-039	-080	-071	075	-089
4	090	-014	103	-033	-198	019	-021	-081	041	-683
5	-027	180	-027	-089	-201	104	111	071	-060	-608
6	056	-171	175	-020	-044	-068	-046	061	000	-260
7	325	-305	-021	146	-255	-032	-256	012	-082	-212
8	093	087	004	021	-587	032	-099	059	054	-284
9	156	068	007	-042	-670	-009	-096	-022	079	-161
10	033	-002	-080	188	-020	023	-014	-174	141	334
11	317	137	-074	000	-195	159	-055	-150	008	-091
12	037	121	197	-040	-209	087	015	-360	063	-199
13	-001	076	043	-069	054	365	-116	042	-538	-097
14	212	187	095	-080	-523	183	-053	082	-022	-004
15	020	214	-078	-285	-159	126	-066	007	339	-078
16	182	-005	008	-166	-633	067	-027	-003	-069	-154
17	-035	025	-093	-315	-007	060	052	012	-131	034
18	-010	-092	-018	-091	046	-002	-098	-070	030	-079
19	-043	163	058	-221	-302	198	-028	-106	058	-229
20	170	099	021	-018	-645	-019	-118	-090	-046	-188
21	-044	-034	-048	-308	-103	304	-142	-018	-365	-182
22	026	102	081	-216	-094	445	057	343	-110	009
23	111	119	039	009	-506	-060	-111	018	233	074
24	148	064	127	-077	-114	057	-007	007	058	-021
25	011	328	238	066	-112	064	051	-056	103	-066
26	069	-052	092	052	-047	-030	056	-741	-019	006
27	133	298	104	-247	-175	086	-138	-024	010	-195
28	465	-153	067	-053	-294	046	-044	182	022	096
29	039	-006	052	-790	-004	021	-090	030	-014	-147
30	-048	063	-076	-161	-187	097	-123	015	-074	-001
31	019	048	032	-124	051	150	008	062	123	-056
32	-007	489	167	-044	-245	070	-055	-178	-128	-043
33	-046	020	195	014	-109	034	-032	-065	055	034
34	076	170	023	-024	044	055	-117	-066	-078	-058
35	-209	172	-138	112	013	043	104	-053	-017	006
36	-044	041	097	-099	-043	096	-007	-034	078	-122
37	167	064	-015	196	-075	-077	043	022	016	031
38	222	301	-052	029	-248	099	060	138	090	009
39	316	532	031	036	-177	044	033	176	102	-031
40	045	690	-059	016	023	162	138	089	002	034
41	166	-118	-042	033	-030	020	-271	-111	023	-021
42	021	011	-062	065	-205	171	-254	160	121	-110
43	035	033	006	-026	-169	120	035	-041	071	-143
44	064	509	121	-222	-195	021	-121	-038	022	-220
45	048	424	118	-002	-255	162	-049	132	-101	-123
46	216	033	-008	-047	-559	014	-221	-125	002	062
47	503	-054	-042	-032	-198	097	-235	261	225	072
48	080	113	117	039	-060	221	062	341	-107	-033

49	033	051	-005	-056	-066	202	-097	010	733	-040
50	109	018	042	019	-035	226	059	-028	070	124
51	757	222	009	-071	-129	-079	-083	-120	088	-011
52	686	-078	130	038	-080	-011	-255	041	065	-148
53	227	-053	020	-041	-180	061	-818	011	074	-049
54	053	047	092	083	-053	112	-046	133	038	-067
55	180	231	529	-025	157	014	-104	002	031	-053
56	016	068	779	-052	-087	123	-068	-022	-034	-009
57	159	006	566	-230	-040	004	-250	-207	-004	-126
58	011	228	254	-147	-090	-028	-212	-165	027	-216
59	740	125	011	-013	-066	055	-083	-068	-125	002
60	236	218	075	-016	-072	019	019	-108	-017	009
61	078	014	106	-728	-079	-036	-023	014	067	105
62	259	112	144	018	-287	130	-083	-118	077	200
63	-005	081	-151	-038	-194	073	-148	003	-101	143
64	103	067	170	-077	-128	089	-087	009	070	-108
65	-068	151	205	-168	-136	166	-307	019	175	-141
66	-010	056	134	-007	-084	063	-692	031	032	104
67	045	269	410	-141	021	059	-010	003	042	027
68	-138	-222	147	121	017	070	-164	253	232	-053
69	154	001	136	-055	-504	113	-181	058	075	073
70	120	076	231	053	-394	108	-147	086	065	146
71	467	-060	126	151	-329	067	-250	-063	-071	-030
72	088	-015	-007	057	-202	045	-182	099	074	054
73	083	129	093	009	-157	-075	-213	-116	049	-103
74	077	158	-090	030	-586	107	-139	003	118	002
75	082	273	241	062	-028	393	066	004	093	-015
76	068	023	139	-424	-123	-004	-091	063	-080	-025
77	-012	335	052	-008	-473	022	-012	-056	-133	039
78	107	697	170	056	-232	099	019	-036	035	021
79	175	119	397	-046	-002	398	127	136	-071	-007
80	320	208	075	-206	-285	092	-098	-129	099	-003
81	012	183	138	-251	-071	358	-018	-105	-095	-093
82	-010	091	049	-040	-111	844	-109	001	009	-071
83	010	040	031	074	016	822	-047	005	090	042
84	059	-085	001	057	-044	-002	-056	006	043	-001
85	-078	015	-069	017	-138	-005	-094	-089	030	009
86	049	404	206	-071	-041	-024	-101	086	019	-198
87	292	337	144	-151	-058	-011	-139	-077	-106	-178
88	652	031	075	-142	-227	013	-214	032	-029	038
89	067	134	056	-031	-113	055	026	-001	074	-081
90	213	-042	042	-077	-067	041	-842	009	-056	013
91	170	031	240	-119	-165	055	-053	-060	092	-145
$\Sigma a^2$	3.285	3.639	2.368	2.265	4.745	2.681	2.918	1.503	1.554	1.825
$\Sigma a^2/n \times 100$	4.15947	3.99900	2.60191	2.48916	5.21430	2.94614	3.20735	1.65208	1.70780	2.00532

(2)

	XI	XII	XIII	XIV	XV	XVI	XVII	XVIII	XIX	XX
1	121	-101	090	-057	-040	008	082	090	194	084
2	-684	-221	032	-067	174	-035	-067	-110	033	-010
3	073	-057	031	-047	071	-175	723	-043	-038	019
4	158	-075	212	105	165	-142	054	-056	-015	-060
5	-122	-001	-065	-047	000	-177	070	103	-073	-116
6	-050	-089	148	-016	043	-612	169	-098	041	-038
7	141	052	264	-152	-055	-126	089	-052	-009	125
8	146	031	139	048	091	-217	147	-094	-184	015
9	039	-028	051	-018	088	-194	118	-134	-023	060
10	119	-248	251	-344	-018	-135	114	040	-134	-037
11	490	-039	-007	-138	043	-072	101	-232	184	109
12	396	-183	058	102	145	-102	-054	-128	-214	-140
13	-005	-102	103	021	022	041	153	-242	-040	-097
14	-051	-011	053	-177	037	-009	318	-089	190	025
15	034	-175	224	014	100	-126	-039	-062	249	-206
16	016	-071	085	038	069	-097	-112	131	195	-148
17	-004	064	081	069	058	015	152	061	016	-159
18	-018	043	018	046	-131	-050	-018	037	-018	068
19	064	058	-001	362	-128	-135	-064	-022	-040	-088
20	031	-039	053	010	-053	-016	127	133	029	-038
21	075	-061	009	214	012	020	086	023	-160	-238
22	096	-046	056	-043	244	016	106	-010	-031	-027
23	049	-161	-030	291	000	-230	014	-104	-076	041
24	060	017	025	067	147	-240	009	-084	021	059
25	012	087	029	102	014	029	067	-131	-411	-151
26	-015	026	-013	-067	123	026	017	034	-032	-091
27	044	-165	-023	193	234	-230	133	025	-141	009
28	089	-044	197	090	004	-151	-099	-283	-207	-095
29	047	053	047	095	-007	-128	-046	-028	-008	103
30	080	-018	027	745	-033	-160	-015	051	-043	004
31	-050	-133	076	720	138	-004	000	024	-051	007
32	048	-134	119	-052	003	-163	-055	-013	010	048
33	-074	-111	-021	057	100	-050	009	-035	035	012
34	-026	-020	076	-091	-085	-222	-065	003	-081	-075
35	000	-048	056	116	346	087	-035	-167	084	-187
36	-032	-099	067	133	-021	-211	104	066	006	092
37	-165	-220	-070	-191	-060	013	-009	-119	-130	-072
38	001	103	-007	107	205	034	507	-051	036	006
39	266	-075	004	001	044	-041	198	-245	148	-021
40	-099	-023	146	053	095	197	184	020	-016	-114
41	133	-092	-021	-100	050	-077	080	-033	080	-036
42	083	-117	002	-199	103	-258	037	084	-161	-159
43	-142	033	039	011	731	017	102	021	-011	006
44	025	-140	-059	016	094	-180	-064	-002	-143	141
45	127	-201	040	-064	237	-152	-068	-073	-141	151
46	-065	-087	020	040	030	-191	075	025	-132	-005
47	123	-124	-021	014	-006	-057	-089	150	-163	209
48	158	-317	-085	204	036	094	-050	124	090	-033

49	-025	-096	138	060	060	-082	189	-035	-014	-091
50	078	058	-036	054	015	159	019	-074	-049	-025
51	005	-017	-015	000	101	000	092	021	-028	084
52	126	037	147	-041	-011	-102	010	042	098	-004
53	017	-076	041	023	-061	-032	003	051	-025	-040
54	-042	-740	016	064	025	-165	-022	-201	-022	-019
55	-047	-015	090	-012	191	-187	-148	-045	-027	062
56	-055	015	001	022	003	-142	110	-014	-071	-025
57	053	-009	059	-093	006	-310	025	039	009	-081
58	-054	-205	052	-059	214	-303	-073	285	-085	-065
59	-194	093	041	-015	010	-071	-003	-057	001	-199
60	049	072	-014	082	664	-045	051	052	-063	-168
61	022	077	-039	172	030	-015	039	-021	-052	-106
62	259	086	073	-041	198	-387	-047	-191	236	041
63	111	021	165	131	-119	-681	044	059	059	-110
64	-051	-162	-016	036	-022	-792	036	067	-103	-052
65	-173	-043	-019	053	-105	-112	-118	-134	-007	-325
66	-095	-153	055	114	-056	-148	027	-046	008	-186
67	-061	-261	151	002	057	-205	-047	113	-276	-091
68	326	-135	-021	153	-009	-130	-197	015	-008	-120
69	034	-137	099	328	062	-061	142	212	-011	-039
70	153	-178	024	023	180	059	-028	150	-027	-082
71	048	060	115	-001	102	-176	133	-059	-124	-145
72	172	-036	-017	078	149	-551	147	032	-038	-111
73	-004	-022	051	-013	133	-225	-030	083	-038	-716
74	014	-098	-163	091	175	-227	129	012	-085	-269
75	042	007	-075	153	-086	182	002	000	163	313
76	-016	-116	011	100	-018	-128	-095	066	-227	-059
77	-186	-031	102	126	078	-246	-205	-022	-088	-104
78	016	067	083	061	070	-107	183	000	-045	-126
79	089	-032	-029	-029	-124	-051	172	007	091	-293
80	059	-151	-256	-015	-097	-181	168	176	-142	-071
81	-007	-023	008	129	125	-162	015	-040	-570	-026
82	027	-028	-005	033	088	-095	-046	-092	-048	047
83	-039	-042	060	137	000	-056	017	103	-046	000
84	023	074	125	101	049	-189	-072	691	042	-078
85	-073	-760	060	059	-096	-135	050	112	017	-002
86	-103	-148	004	157	-024	-106	-064	068	-199	072
87	-055	-199	-066	125	-017	-147	-020	101	094	-114
88	042	-089	-118	018	135	-157	030	105	052	016
89	-021	-058	819	065	023	-044	023	074	-008	-034
90	071	049	-091	021	051	-125	021	015	015	000
91	-049	-119	-106	041	033	-722	-056	087	-035	-038
$\Sigma a^2$	1.555	1.884	1.316	2.239	1.802	3.801	1.517	1.307	1.351	1.516
$\Sigma a^2/n \times 100$	1.70913	2.20714	1.44596	2.24627	1.98599	4.17723	1.66702	1.43564	1.48524	1.66627

(3)

	XXI	XXII	XXIII	XXIV	XXV	XXVI	XXVII	$h^2$
1	-003	-204	192	-075	-335	036	051	607
2	-013	056	086	-157	166	009	-004	689
3	-034	093	-061	-044	-096	-064	-026	718
4	-037	044	-005	-157	014	-138	-015	728
5	105	088	000	006	-043	054	-071	602
6	169	-036	028	041	-072	-092	-160	669
7	126	-176	-010	008	-099	-006	049	626
8	208	098	128	033	026	024	128	714
9	042	019	136	027	-152	086	-030	663
10	005	-100	240	-004	147	-149	-224	680
11	139	057	-091	-088	104	136	-173	701
12	-071	137	-149	060	-161	044	-102	693
13	094	-087	151	079	138	-188	-016	682
14	015	-054	-127	018	140	-026	037	640
15	011	-166	011	282	188	037	-171	694
16	-109	-079	-053	-093	-083	038	-194	690
17	103	-049	-045	052	-124	-689	-010	716
18	000	076	001	-014	087	-791	-038	713
19	053	171	144	169	130	-084	-248	636
20	-078	091	-020	039	-017	072	-265	653
21	-012	004	-034	230	243	-031	-142	673
22	-124	009	213	255	-045	-054	-225	678
23	157	158	097	056	088	000	-208	661
24	036	045	022	-011	-074	-028	-755	750
25	-018	-009	037	-079	-072	-099	-401	626
26	-020	023	174	018	-049	-094	-027	652
27	-286	-055	103	047	-239	063	-120	663
28	-097	023	083	-046	-190	011	-061	664
29	019	-009	-001	-002	023	-034	-053	713
30	008	117	008	110	041	-102	-016	737
31	118	021	-004	-061	055	-047	-072	664
32	128	303	188	-103	-137	-011	-064	637
33	-019	-074	788	-009	004	026	-028	730
34	-043	230	632	-066	-190	-001	008	653
35	-060	537	-100	-017	041	043	036	647
36	-044	694	011	093	-051	-069	-076	666
37	-546	097	073	-030	146	147	005	601
38	-054	-171	116	107	018	-098	065	646
39	-020	-010	074	013	065	025	015	677
40	-093	009	016	-040	089	135	-065	710
41	054	-018	075	-067	-666	-011	-101	662
42	128	139	204	167	-402	040	-119	680
43	-004	115	049	059	-108	110	-089	696
44	163	302	152	031	089	-072	-161	724
45	030	017	133	086	122	-187	167	633
46	-240	-028	-037	014	-067	-036	-108	586
47	-114	026	227	041	041	-019	-021	694
48	107	115	103	410	-028	-194	-181	709



49	-013	062	061	074	023	-009	-091	713
50	-041	013	-053	743	040	006	042	701
51	018	-020	-034	025	039	089	-083	728
52	-109	-124	-064	159	-031	-021	-031	718
53	092	-051	001	-001	-080	-007	020	807
54	-008	151	060	-014	-048	056	-058	722
55	-093	022	007	044	031	-026	-383	678
56	091	056	172	045	097	095	-093	758
57	-054	033	068	-001	-216	-055	065	707
58	-189	189	029	-060	-069	-028	-153	662
59	131	104	-003	117	-102	064	-013	753
60	035	-033	023	-050	068	007	-127	650
61	149	082	011	-040	016	-325	001	765
62	-027	-007	086	055	038	-109	-137	679
63	-030	147	058	-123	037	064	012	732
64	063	015	033	-027	-035	-010	-082	791
65	-036	330	054	-174	-131	008	087	657
66	026	260	032	-120	-022	-010	023	723
67	178	158	-006	-198	-153	-051	-285	713
68	190	-103	115	-248	-157	-290	-045	712
69	-012	161	-002	-016	201	127	140	676
70	131	455	133	-149	142	-066	035	713
71	-197	-063	072	-144	-078	-118	-016	656
72	-093	194	117	-341	120	-003	-039	700
73	-008	-016	016	038	-040	-076	038	741
74	115	028	123	-005	-016	-107	153	718
75	-007	-053	-074	159	-010	-093	027	553
76	560	034	-079	-025	-053	-108	-049	689
77	025	-042	-076	109	-084	-244	146	662
78	-027	006	001	093	-067	070	-047	702
79	070	114	159	054	165	108	034	644
80	-094	111	016	-333	015	058	-109	690
81	051	-044	009	089	173	006	051	712
82	019	025	012	021	018	027	-006	792
83	-003	080	009	086	-079	-049	-034	764
84	110	018	-029	-087	009	-114	125	632
85	-017	013	077	-024	-043	056	087	702
86	289	378	147	-123	184	072	-158	725
87	316	105	228	-161	164	-029	-090	660
88	-013	-088	012	-172	-040	-116	-073	694
89	017	072	014	-022	003	-057	-036	757
90	-043	-045	061	000	-054	-046	-050	826
91	-019	000	065	-044	-090	-037	-105	762
$\Sigma a^2$	1.447	1.850	1.692	1.637	1.510	1.703	1.714	57.225
$\Sigma a^2/n \times 100$	1.58992	2.20332	1.85897	1.79941	1.69451	1.87125	1.88347	62.885

注  $\Sigma a^2$  と  $\Sigma a^2/n \times 100$  以外は小数点を省略小数点4位以下は切り捨て

Table 3 学園生活満足の構造

因 子	No.	意 見 内 容
I 教員とのコミュニケーション因子	51 59 52 88 47 71 28	この大学に来てよい先生に出会った。 先生との心のふれあいを感じた時がある。 先生達と気軽に雑談ができる。 学生は教員に対して親しみをもっている。 授業時間外でも教員は学生の質問にも気軽に応じてくれる。 学生が教員と話し合う機会は多い。 学生は気軽に研究室をたずねて質問したり議論している。
II 大学・専攻への帰属意識の因子	78 40 39 44 32 45	ここでの大学生活は、自分の将来に明るい見通しを与えている。 卒業後専門を生かせる職業につけそうだ。 今の専攻学科に入学してよかったと思っている。 本学の学生であることを誇りに感じている。 現在でも他大学へ進学すればよかったと思う。 現在の学生生活は全体としてうまくいっている。
III 課外活動に関する因子	56 57 55 67	学内でスポーツをしたりゲームを楽しむ仲間がいる。 学内で健康に良い運動ができる。 先輩、後輩の良い関係がある。 本学のクラブ活動は活発である。
IV 要求される学習量に関する因子	29 61	授業についていくには、予習、復習など自宅での学習が必要である。 いっしょうけんめい勉強しないと授業についていけない。
V 教員に対する評価因子	9 20 16 8 46 14 23 69	学生の興味を考えた授業のすすめ方が行なわれている。 教員は学生の能力をひき出す努力をしている。 教員は学生の学習意欲をひき出すように工夫している。 授業内容が割合充実している。 本学の教員は学生の意見や希望を授業方法や指導に生かしている。 授業を通じて新しい発見ができる。 多くの教員は熱心に研究にたずさわっている。 講義、指導の面で熱心な教員が多い。
VI 学生相互の人格の尊重・協力の因子	82 83 22	学生はお互いに相手の個性を尊重している。 学生はお互いの道德観、価値観の違いを認め合っている。 困った時に学生同士よく助け合う。
VII 事務サービスに関する満足因子	90 53 66	学生は事務の人に対して親しみを感じている。 事務の人々は学生の要求に親切に対応している。 学生に対する事務的サービスは満足できる。
XII 規則、管理による拘束感の因子	85 54	学内の規則が厳しすぎる。 学生生活は規則にしばられず比較的自由である。
XIV 友人の学習態度への評価因子	30 31	まじめで熱心な学生が多い。 よい成績をとろうと努力する学生が多い。

XV 自治活動に関する因子	43 自治会（学生会）の活動は多くの学生の意見を反映している。 60 自治会（学生会）の活動は活発である。
XVI カリキュラム，時間割に関する因子	64 興味のある科目を選択できる。 91 専門教育科目は自由に選択できる。 63 学生のことを考えた時間割が組まれている。 6 一般教育科目は自由に選択できる。 72 専門課程のカリキュラムはうまく整えられている。 62 演習などは自分の興味に応じて勉強できる(できそうだ)。
XXIII 施設スペースに関する因子	33 授業を受けるのに教室がせますぎて困る。 34 大学の構内はせまくて不便である。
XXIV 友人関係の因子	50 友人と人生や将来のことについてよく話し合う。 48 勉学について友人同士助け合うことがよくある。
XXV 学習環境に関する因子	41 大学の構内には樹木が多い。 42 大学の構内は静かで勉学に適している。
XXVI 要求される学習レベルの因子	18 教科書だけ勉強していれば、ほとんどの試験に間に合う。 17 たいして勉強しなくても卒業に必要な単位はとれる。

いて他方面を志向しているのか、を正確に把握する。その意味では教員の学生に対する態度因子と称しても良いが、意見項目の内容から率直に“教員とのコミュニケーション因子”とした。

Ⅱ因子：現在の学園生活に対する満足度は決して過去を含んだ現時点での学園環境だけに依存するのではない。そこを卒業した将来の進路，成功の確率といった将来の見通しによって規定されてくる。同時にそれは、現在の帰属集団に対する一体感情とも表裏一体をなしている。“大学・専攻への帰属意識の因子”と解釈した。

Ⅲ因子：学園は教育の場であるが、学生にとっては友人と語らい、スポーツに汗を流す生活の場でもある。第Ⅲ因子を身体的活動を中心にした“課外活動に関する因子”と命名した。

Ⅳ因子：予習・復習などの授業外学習が必要だとする認知は、学生の興味・関心、カリキュラムに於ける当該授業の位置、評価（試験）に対する態度、内容の難易度などの要因によって決定されると考えられる。Ⅳ因子に含まれている変数は、それらを抱摂して、どれほどの学習量が要求されているかを問題としており、“要求される学習量の因子”と名づけた。

Ⅴ因子：大学教員は、研究・教育という機能をはたすよう期待されている。学生にとって直接的に関係するのは、教育機能であり、授業である。授業も、その目標や、内容の豊富さといった視点よりも、自分達の興味・関心をどれだけ喚起してくれるか、どれだけのものを与えてくれるかといった受動的視点からの評価が中心になる。第Ⅴ因子を“教員に対する評価因子”と名づけた。

Ⅵ因子：学生同士の交友関係についての最初の因子である。お互いに相手の価値観、個性

を認めあい、協力していくことは人格発達のより高次の段階である。又、それが比較的自由におこないうるのが学園生活の大きな特徴であるかもしれない。第Ⅶ因子を“学生相互の人格の尊重・協力の因子”と名づけた。

Ⅶ因子：学園生活での人的関係の第2は対事務職員とのものである。学生と事務職員との接触は、相互コミュニケーション量からみれば、むしろ学生と教員のものより多いと予想される。それだけに影響力は大きく、学園生活満足度の重要な要因である。“事務サービスに関する満足因子”と命名した。

Ⅷ因子：学生の生活は、学園の規則や手続によって部分的に規定されている。その管理が厳しくなればなるほど、学生は拘束されていると意識し、学園生活の満足度は低下すると予想される。第Ⅷ因子には2変数が含まれているが、いずれも学園の対学生管理に関するものであり、“規則・管理による拘束感の因子”と解釈した。

XⅣ因子：2変数が含まれるが、いずれも級友の学習態度に関するものである。級友が学習という価値に対して真摯であるか否か、良い成績をとろうと努力する学生が多いかどうかは、間接的に自己の満足度評価と結びついているだろう。第XⅣ因子を“友人の学習態度への評価因子”と名づけた。

XⅤ因子：自治会（学生会）活動も学園生活の一側面である。包含されている変数は、ともに学生の自治活動に関するものなので、“自治活動に関する因子”と名づけた。

XⅥ因子：カリキュラムの構造、科目選択の自由度、そして時間割の編成といった要因は学生の生活にとって重要事である。希望する科目が選択でき、時間割が生活上便利なものであることは、満足度を向上させ、その逆は不満を増大させるであろう。第XⅥ因子を“カリキュラム・時間割に関する因子”と名づけた。

XXⅢ因子：学園での生活の場、その大部分は教室であり、食堂・学生会館であり、グラウンドであろう。XXⅢ因子に含まれている変数は、そのうち施設の広狭に関するものである。“施設スペースに関する因子”と命名した。

XXⅣ因子：No.50の変数は、いわゆる友人関係といった情緒的色彩が濃く、No.48の変数は一見機能的関係をあらわすものと思える。しかしよく考えると、No.48も情緒的関係を基盤にしたもので、その具体的あらわれと解釈できる。したがってXXⅣ因子を“友人関係の因子”と称した。

XXⅤ因子：構内に樹木が多く、静かで勉学に適しているといった内容であり、“学習環境の因子”と命名した。

XXⅥ因子：Ⅳ因子と対をなす因子と考えられる。期末試験に合格するだろう、たいして勉強しなくても無事卒業できるだろう、という判断は、学園・教員から要求されている学習レベルを反映するものといえる。XXⅥ因子を“要求される学習レベルの因子”と名づけ

た。

さて、以上の因子数の決定と因子の解釈は、まだ暫定的なものである。例えば、91変数相互の相関行列に基礎をおいて、因子数を指定して再処理をおこなったり、今回の結果にもとづき、あらかじめ変数を削除して因子分析と Varimax 回転をやりなおすなどの手続が考えられる。しかし、最初に述べたとおり、今回の研究目的が、大きく変数を仕分けることであり、それによって学園生活満足の構造を把握することにあるので、あえて以上の考察をおこなった。

## 2 合成得点による因子別満足度

暫定的に変数を15因子に仕分けたので、因子別に合成得点を算出し、大学ごとの満足度の比較を試みた。厳密には因子得点を算出しなければならないが、ここでは実践的妥当性を検証するのが主な目的なので、Table 3 の各変数の値を大学別に単純平均し、因子の得点とした。ただそのままでは図が読みにくいので6点からその変数値平均を減算し、逆転して図示してある。

Fig.1 にしたがって、因子別に満足度の高低をみてみよう。まず満足度の高い因子は、XXIV) 友人関係の因子、XII) 規則・管理による拘束感の因子、VI) 学生相互の人格の尊重・協力の因子である。すなわち、大学に管理され拘束されているという意識はなく、自由に伸び伸びした雰囲気にも満足しており、学生はお互いに相手を尊重し、友人関係には他の学園生活のどの側面よりも満足している。

他方、不満の大きい因子は、まず、XV) 自治活動に関する因子、XXV) 学習環境に関する因子、XVI) カリキュラム・時間割に関する因子、そして XXIII) 施設スペースに関する因子である。

XV) 自治活動に関する因子は、自治会（学生会）活動が多く学生の意見を反映していない、活動が不活発であるという評定であり、必ずしもそれが学園生活上の不満足因子であるともいえないだろう。ただ XXV) 因子、XXIII) 因子は、今回の調査対象がいずれも東京という過密状況に位置していることから、当然不満因子として作用していると解釈できる。

さて次に調査対象校の満足度を比較検討してみよう。対象校の間で、満足度の差が大きい因子は、I) 教員とのコミュニケーション因子、II) 大学・専攻への帰属意識の因子、III) 課外活動の因子、VII) 事務サービスに関する因子、XVI) カリキュラム・時間割に関する因子、XXV) 学習環境に関する因子、などである。

これらを縦につないで、対象校別に学生の満足度プロフィールを描いてみよう。

まずA短大は、学習環境に対しては他の2校よりも満足度が高く、教員とのコミュニケーションも相対的には良好である。しかし、大学・専攻に対する帰属意識は低く、卒業後の将来に不安感を抱いていることがうかがえる。



次いでB短大では、友人との情緒的な関係に対しては満足度は高く、相互の人格尊重、協力関係も良い。帰属意識も、ニュートラルの3点に近く、将来に対してA短大ほど不安が高くない。しかし他の因子では、軒並低い得点を示し、特に課外活動、事務サービス、カリキュラム・時間割、スペース、学習環境などの側面で不満が強いことを示している。

C大学は、学習環境と事務サービスでは相対的に低い満足度もみられるが、他の因子では、ほとんど平均に近いが、それ以上の高い満足度を示している。特に、帰属意識、課外活動、規則に拘束されない自由な雰囲気、友人の学習態度などの点で高い得点を示している。

これらの因子別合成得点による比較は、因子及び調査票の妥当性を検討するためにおこなったが、三大学を知る共同研究者の間では、経験的妥当性を認めるものであった。

さらに同一学部・専攻による大学間比較、一つの大学に於ける学部間比較、性差の検討などが実施されることによって、大学生の学園生活満足の構造が明らかになっていくものと考えられる。

### 要約ならびに結論

質問紙法によって、1大学、2短大の学生278名を対象に、学園生活満足調査を実施した。因子分析の結果をもとに最終的には15の因子を決定し、解釈した。それぞれ、教員とのコミュニケーション因子、大学・専攻への帰属意識の因子、課外活動に関する因子、要求される学習量に関する因子、教員に対する評価因子、学生相互の人格の尊重・協力の因子、事務サービスに関する満足因子、規則・管理による拘束感の因子、友人の学習態度への評価因子、自治活動に関する因子、カリキュラム・時間割に関する因子、施設スペースに関する因子、友人関係の因子、学習環境に関する因子、要求される学習レベルの因子と名付けられた。

次いで因子の経験的妥当性を検討する目的で、因子別に変数値の単純平均による合成得点を算出し、大学間の比較をおこなった。3大学とも満足度の高い因子は、友人関係の因子であり、不満感の強いのは、学習環境に関する因子であった。又、大学間で満足度プロフィールに差異が認められ、一応の経験的妥当性が確認された。

### 参 考 文 献

- 井上正明 1977 中学生のスクール・モラルに関する実証的研究(1) 日本教育心理学会第19回総会  
発表論文集
- 本明寛・垣本由紀子・神尾桜子 1967 特定集団に於けるモラル規定要因についての検討 日本心理学会第30回大会発表論文集
- 中村勝 1975 地域社会に対する住民意識の分析 心理学研究, 45, 117—129
- 日本労務研究会編 1955 従業員態度調査法 日本労務研究会

- 西山啓・西山鴻 1972 スクールモラルに関する研究(3) 日本教育心理学会第14回総会発表論文集  
西山鴻・倉智佐一・松山安雄・中津達雄 1977 スクール・モラルに関する研究(Ⅳ) 日本教育心理学会第19回総会発表論文集  
立教大学学生相談部・学生部編 1973 大学環境調査報告書 立教大学学生相談部・学生部  
立教大学学生相談部・学生部編 1975 大学環境調査報告書 立教大学学生相談部・学生部  
総理府人事局編 1970 国家公務員職場意見調査の手引 総理府人事局  
鈴木武治 1971 我国に於けるモラル研究の動向と問題点 心理学評論, 14, 295—307  
田崎醇之助 1970 職務満足と職業生活態度 早稲田大学生産研究所紀要, 1, 51—69

## An Analysis of College Life Satisfaction of Undergraduates

TAKAHIKO WADA<sup>1)</sup> JYUNNOSUKE TAZAKI<sup>2)</sup>

The purpose of the present study was to investigate college life satisfaction of undergraduates of three colleges. Questionnaires were administered to 278 undergraduates.

The results were that (a) through factor analysis, 15 factors in college life satisfaction were abstracted, (b) differences in factor score were found between three colleges.

From the practical viewpoint, the present study reveals the need for improvement in learning surroundings and a curriculum.

(わだ たかひこ 心理学)

(たざき じゅんのすけ 早稲田大学システム科学研究所)

---

Department of Applied Psychology, Shiraume Gakuen College, Tokyo.  
System Science Institute, Waseda University, Tokyo.